

事業名	花と染色わらしべプロジェクト
事業者名	一般社団法人 鷗住居まちづくりセンター 代表理事 小野寺有一
連絡先	〒026-0303 釜石市箱崎町7-11-2 わらしべ事業部 電話：0193-28-1326（担当者：矢畑） FAX：0193-28-2334 メールアドレス：h-yahata@mopera.net

（2013年4月1日以降本格的運用開始予定）

（一社）鷗住居まちづくりセンター わらしべ事業部です。

復興に向けて新しい事業として、塩害の田畑や町中の土地でマリーゴールドを栽培。その花を収穫し花卉をばらし乾燥して作った染料パウダーで黄色に染まるまちづくりを目指します。



苗床から植え替え直後畑（全景）

※乾燥マリーゴールドの花びらからパウダーに物々交換。



昔話「わらしべ長者」の物語の中で若者が、手に入

れていく物が、変化していく。わらしべ→アブを結びつけたわらしべ→蜜柑→反物→馬→屋敷のように出会いを活かした循環型社会・産業を構築、実践していく。

四季を通じて、住民主導の活動で花のある和やかな「まち」。今年度は、パイロットランとして栽培方法や加工作業、商品開発の基礎のトレーニング、データの蓄積が主の業務になります。



東京農大第4次復耕支援隊(24名)



わらしべ農園



フレンチマリーゴールド



花びらを天然染色のパウダーとして活用し、京都の染め物業者、法政大学、子供服の企業とコラボし、地域内で染色教室や黄色に染めたバンダナなど商品開発を行い事業化。復興のシンボルとして黄色に染まるまちづくり。

キャンドルづくりもまだ試作段階で法政大学生の協力により楽しみながらも真剣に取り組みました。

味わいのある傑作品が、どんどん作り出され4時間があっという間に時間が過ぎていくくらいです。



スタッフと法政大学生



原料を溶かしている



貝殻でアレンジした力作

マリーゴールド栽培の害虫対策と、天日乾燥マリーゴールドの花びらづくりには、現在まだ苦労しておりますが、事業の方向性はわずかながら見えてきました。

今後は、商品化は基より地域連携としての（仮称）わらしべサポーター（現地で作業を行える方）と（仮称）わらしべキューピット（全国で趣旨に賛同して一緒にこのプロジェクトへ参加（自宅や職場等間接的参加者））でフレンチマリーゴールドを栽培し、観賞、花摘み取り、花びらばらし、天日乾燥した花びらを現地へ郵送か直接ツアー等で訪れて持ち込むなど 交流イベントにつながる活動も模索しています。



新年度の耕作予定地（浸水地）

今年度は事業の基礎技術の構築がメインになりますが、後半 3 月までは染色の生地に対するアプローチの手法の考察、キャンドルづくりは、季節行事に合わせた体験教室の開催し、ニーズの把握を兼ねてトレーニングします。来年度の春には、今年度の倍 2000 粒の種まきを計画しており、さらに初夏から夏、秋口の間には染色教室と摘み取り体験ツアー、秋には、染色キット発売、冬にはハロウィンやクリスマスキャンドルづくりと、次々とプランが生まれています。

課題としては、専従職員の安定雇用と雇用の創出ためのシステムづくり、商品化は不可欠です。いろいろと企画中です。みなさんの応援、支援、アドバイスをよろしくお願いいたします。



夜露で花びらが輝いています



・元気が出る花の種プロジェクト（左図）マイガーデンの読者からの提供。ポット栽培中

4 種類の種 ポピー、シレネ、ゴデチア、ネモフィラ。



・津波の境界となった土地に鎮魂と津波の脅威を伝える「希望の丘」と名付ける花壇を作りました。

※花を育てて提供と学園祭でチューリップの球根の売り上げの

半分を支援金に寄付を頂きました。東京農大 OB と静岡県立田方農業高等学校の生徒、その隣接の特別養護学校の子供たちのコラボで実現しました。